

I 研究の内容

1 研究内容について

○各教科等の特性を生かした「言語活動の充実」のための理論研究

○授業実践

思考力・判断力・表現力等を育てる言語活動を取り入れる。

「活用力」「学級力」について、各学年の発達段階に合った取り組みをする。

○児童の実態分析と指導法の改善

山梨県学力把握調査（3,5年）、全国学力学習状況調査（6年）の結果分析から、本校児童の実態把握をし、授業づくりの視点や指導法の共通理解を図る。

2 研究方法について

・授業実践を通して研究を深める。

・[低学年部会][高学年部会]の2ブロックを基本にして、授業研究を行う。

・ブロックごと1本の授業研究をもつ。

・部会研究の内容を交流し合い、共通理解を持つ。

・一人一実践の取り組みとして、全学年の授業を公開し合う。

3 具体的実践

(1) 理論研究

「言語活動の充実に向けて」

「学級力向上プロジェクトについて」

「山梨市学力向上の取組について」

「問題行動の背景にあるものの分析」

講師 飯田亜佳先生（学校カウンセラー）

(2) 研究授業

第3学年 学級活動 「学級力向上プロジェクト」 授業者 岡村理恵教諭

指導助言 山梨県義務教育課 饗場 宏指導主事

第5学年 算数科 「形も大きさも同じ図形を調べよう」 授業者 今澤比呂樹教諭

指導助言 峡東教育事務所 霜村文晴指導主事

第6学年 英語科 「できることを紹介しよう」 授業者 深澤真人教諭

指導助言 山梨大学大学院 長瀬慶來教授

(3) 授業実践

第1学年 算数科 「けいさんピラミッド」 市川香織 教諭

第1学年 学級活動 「みんなでニコニコ2くみをつくろう」 小椋恵美 教諭

第2学年 音楽科 「ようすをおもいうかべよう」 丸山なつみ教諭

第2学年	算数科「かけ算(2)」	廣瀬明子教諭
第4学年	算数科「広さを調べよう」	飯島裕明教諭
第6学年	算数科「かたちであそぼう」	深澤真人 教諭
すみれ学級	自立活動「道案内をしよう」	河崎幸江教諭
たんぼぼ学級	算数科「九九をつくろう」	窪川純一郎教諭
日本語指導	国語科「にたいみのことば、はんたいのいみのことば」	高野恵美子教諭

II 成果と課題

◇研究主題は、本校児童の実態に妥当なものであった。昨年度までの研究を継続しながら、言語活動の充実をめざした研究ができた。また、山梨市の学力向上の取り組みとして、「活用力」「学級力」を高めるために各学年の発達段階に適した取り組みを行った。今年度までの取り組みを、本校の教育課程に位置づけし、来年度以降本格的に実践していく。

◇本時の目標を達成するためには、どのような言語活動をどう仕組んだら効果的かを、「言語活動の充実を図る視点」に照らし合わせながら授業を組み立てるようにした。互いの授業を見ることで、成果や課題を共通確認し、次の授業へとつなげることができた。

◇昨年度に引き続き、授業のゴールを見据えた「ねらいの明確化」をめざした。ねらいを明確にすることで、「学習のまとめ」や「児童の振り返り」までを見通した授業を計画することができた。また、ねらいは青色、まとめは赤色で囲むことを全学年統一して取り組んだ。板書計画や黒板の有効な使い方等も先進校の例を参考にしながら、共通理解を得た。

◆学力の向上には、学級の安定が不可欠である。児童が自己表現できる「居心地のよい場」となる学級経営を誰もが展開できるよう、教師力を高める必要がある。今後も、「学級力向上」に向けての取り組みを研究して、実践していきたい。

◆各種学力テストの「活用問題」「記述式問題」について課題が残っている。高まった意欲を確かな学力へつなぐための取り組みを継続していく必要がある。

◆本校では4学年が35人以上（その内3学年はアクティブ加配）である。単元や学習内容により、少人数指導やTT指導を取り入れ、学習形態の工夫を行っている。個々の児童の見取りを適切に行い、どう授業に生かしていくのか。自力解決や発言の機会の確保、支援を必要とする児童への手だて等、課題が残る。

◆「家庭での学習時間・テレビ等の視聴時間」の改善をめざして、家庭との連携を図る。

III 成果物

- 1 研究授業学習授業案及び資料
- 2 授業実践授業案

(研究主任 廣瀬明子)